



# 森のなかま

2023年 11月号

NO. 185 (継続330号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 県立21世紀の森 矢倉岳登山

日 時： 2023年10月1日(日)  
場 所： 県立21世紀の森(神奈川県南足柄市内山)  
参加者： 12名(大人10名・子供2名)  
インストラクター： L上宮田⑪、西岡⑭

(記・写真 上宮田 幸恵⑪)

朝までの土砂降りが嘘のように、参加者が集合する頃には青空も広がり始め21世紀の森の広場にはカツラや金木犀の香りが漂い一気に秋の気配がやって来ました。

8時20分からオリエンテーションを開始、21世紀の森の野村様より一日のスケジュールや安全についてお話いただきインストラクターの紹介後、車で万葉公園まで送っていただきます。万葉公園到着後、再度安全確認をし全員で体操をして2班に分かれて歩行開始です。1班は家族グループと友人同士でご参加の女性計5名。2班は健脚者グループ計7名で1班に追いついたら休むというやり方でゆっくりと進みました。秋になりヤマボウシ、サルナシ、アブラチャン、ムクロジ、シラカシやクヌギなど多くの木々が実をつけており、食べられる、食べられないという話で盛り上がりました。

ホオノキ、キブシ、ミツマタなどの冬芽も観察し冬芽が今できていることに驚きつつ夏から秋の初めまでに仕込んで、寒くなったらお休みして春を待っているという話しをすると「冬芽は冬に出来るものと思っていた」との声があがりました。

スギ・ヒノキの林の中では一番端の列の枝を残す、風よけ対策についてお話しし、箱根や富士山の噴火の形跡や海底火山の名残も見つけ、あっという間に山伏平に到着です。ここで2グループが全員集合(全員の体調と下山希望者がいないかを確認します)。

少し弱音を吐いていた小学生もここから山頂までの20分の登りを頑張り、全員元気に11:40登頂、昼食時は参加者同士の会話も弾みます。残念ながら雲に阻まれ富士の景観は見れませんでした。噴煙をあげる大涌谷・箱根連山をバックに記念写真を撮り、山伏平～浜居場城跡を経てセントラル広場を抜け15時に森林館に到着、21世紀の森の野村様の進行でクロージング、体調確認し元気に解散となりました。



《やどりき事業部特別企画》

**2023年度第2回『やどりきの森へ行こう！』****【溪流散策とやどりきの成り立ち】**

日時：2023年9月16日（土）9：30 — 14：30

参加者：20名

インストラクター：L水口⑨, 上宮田⑪, 西岡⑭, 小池⑰, 藤田⑰

(記 西岡 一郎⑭、写真 野村 昭憲⑭)

昨年に続き「溪流散策とやどりきの成り立ち」のテーマで、地質とその歴史に注目した観察会を行いました。集会棟前での「丹沢の成り立ち」のミニ講座の後、寄沢の沢歩きをし、午後には石ころ観察を行いました。



ミニ講義

ミニ講座では、大陸から分離し終わった日本列島に、海底火山であった丹沢隗が、フィリピン海プレートの北上により日本列島に衝突したことで、寄沢にある代表的な岩石の種類とそれがいつどのようにできたかなど、壮大な歴史と岩石の関係を説明しました。

講座後は、ヘルメットを着けて寄沢に降り、滝郷の滝の断層の痕跡を見た後、沢歩きをしました。

講義に出てきた緑色片岩探しから始まり、大きなごつごつした岩、大きな石が入った岩など、いつもとは違って見える沢の風景を見ながら、少し緊張感をもって沢を進みました。

林道に上がってからは、みんなでヤマビルをチェックし、ついていたヤマビルをしばし観察しました。気分をリラックスさせてから溪流の散策をし、ツノハシバミやアブラチャンの実やイタダリの花などを観察しました。

ちょうど100年前の関東大震災では、寄沢は半分ほどの面積が崩れたこと、今も地盤は弱く大雨で道が崩れることもあることを説明しました。



寄沢に行く



アブラチャンの実



林道終点の枕状溶岩

林道コース終点には、1700万年ほど前には海底火山であった証拠の「枕状溶岩」があり、そのでき方の説明をしました。

午後は、寄沢に降りて、色や粒の細かさの違ういろいろな石ころを拾い、広場に持ち帰って、トータル岩（深成岩）、水中自破砕溶岩（堆積岩）、細粒凝灰岩（堆積岩）、ホルンフェルス（変成岩）などの同定を行いました。

丹沢のでき方と岩石から、1700万年や数百万年の歴史があることがわかり、見る目が変わり、楽しんでいただけた一日だと思います。

丹沢のでき方と岩石から、1700万年や数百万年の歴史があることがわかり、見る目が変わり、楽しんでいただけた一日だと思います。



河原で石を拾い同定

## 活動短信

今回の掲載はR5年7月29日からR5年9月12日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 11月（神無月）（旧暦10月長月）の 二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ（最終回）

二十四節気：立冬11/7 小雪11/22

立冬は、冬の気配が山にも里にも感じられてくるころ。「山茶花の垣一重なり法華寺 夏目漱石」田んぼ 稲刈り後天日干しをした稲を脱穀しました。天候のせいから今年の収量は、例年に比べ大幅減でした。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずバツ書きで結構です。  
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

#### ◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

**場** 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

**参** 参加者 人数

**県** 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

**財** (公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師

**スタッフ** 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

**イ** インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(\_)\_m

#### ◆ アマノ株式会社 (自然観察・クラフト体験)

**日** 令和5年7月29日(土) 10:00~14:00 晴

**場** 県立21世紀の森

**参** 20名(大人14名、子ども6名)

**イ** L⑩上田、⑦山崎、⑭西岡、⑰田島

全国的に猛暑が続く時期で当日は気温33度を超える中、参加者は3班にわかれ、午前中は森林館を見学し、金太郎コースから下りてどんぐりコースを上りました。金太郎コースではスカシダワラ(クスサンという蛾の繭)、セミ(主にヒグラシ)の抜け殻、バッタがたくさん見つけられて子供たちは大はしゃぎでした。どんぐりコース下



部は枯損木が多く足元に注意するよう意識して声掛けをおこないました。給水休憩を多めにとり、ようやくどんぐりコースを終了しました。大人も子どもも汗だくで、水分をたくさん飲んでいられる様子が見られました。

午後は森林館研修室でクラフト(キット)製作。完成品は3輪バギー、ミニチェア、迷路ゲームです。設計図をもとに親子協力してベニヤ板を貼り合わせたり、釘打ちしたり、組み合わせたり、約1時間後には立派な作品ができていました。

その後、森林館を出て樹木のCO2吸収量を測る環境学習をおこないました。子どもたちがサンプル木(ヒノキ)の胸高直径を測って、用意した算出表で1年間に吸収するCO2量を算出し、樹木が成長する過程でCO2を固定し地球温暖化防止源として有効であることを学習しました。

とても暑い中での活動でしたが、皆さん安全に楽しんでいただきました。



(記 田島 聖一郎⑰、写真 上田 啓二⑩)

#### ◆ 神奈川県水道記念館(竹林除伐体験・クラフト工作)

**日** 令和5年8月19日(土) 10:00~14:30 晴れ

**場** 県立21世紀の森

**参** 大人10名、子供11名

**イ** L牧石⑭、高谷⑰、田島⑰

**看** 野口

8月後半を迎えた20日(日)県立21世紀の森で「神奈川県水道記念館 水源林保全体験活動」を実施した。当日は全国的に35度を超える猛暑となり、熱中症に注意しながら活動をおこなった。台風の影響もあり、活動場所のマダケ展示林のカントリーヘッジは散乱状態。竹林の除伐作業に入る前に散乱した竹を片付け足元の安全確保が出来る状態にしたのち、竹林の除伐作業に入った。活動中の休憩は、マダケ展示林の横を流れる沢に移動し休憩をとった。活動中はこまめな水分補給を行い11時40分現場での活動を終了し移動開始。移動途中、沢の水に手を入れ、冷たくて気持ち良いとの声もきかれた。用具倉庫前に移動後、用具清掃、整備を行ったのち倉庫に返却を行い午前の活動を終了した。



13時～研修室に集合し、インストラクターも参加させていただき間伐材を利用した箸作りを実施した。箸作りが予定時間より早く完了したため、「4つのスタンプをあつめて、プレゼントをもらおう！」スタンプラリーを実施した。相模湾が一望できる「あずまや」付近では参加した子供たちが金太郎コースの斜面を元気に走っていました。14時30分バスをお見送りし、予定通り終了した。



(記・写真 牧石 稔⑭)

#### ◆ かながわ森林インストラクター やどりき事業部 シダ類観察研修

📅 令和5年8月26日(土)9:00～15:40 曇り時々晴

📍 やどりき水源林

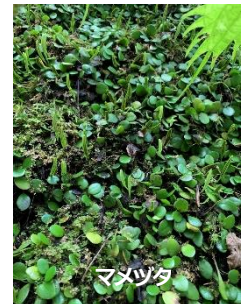
👤 7名

👩‍🏫 講師 西岡⑭、L水口⑨、内野⑨、國弘⑭、石垣⑮、河西⑮、藤田⑰

雲の多い晴れという天気の中、シダ類だけではなくコケ類(以下の\*のもの)や地衣類も対象に観察研修を実施しました。直近に雨が降ったことから、湿り気がありコケ類もしっとりとした表情を見せていました。

管理棟付近で、ミゾシダ、ジャゴケ\*、門を出たところの足元にイヌワラビ、壁にノキシノブ、トヤマシノブゴケ\*、橋を渡りヤブソテツ、オクマワラビ、ゲジゲジシダ、イノデ。私はワラビやゼンマイを初めて葉の姿で確認しました。イワヒメワラビの群生やあちこちでみる

オオバノイノモトソウはシカが好んで食べないため、多く生えているということでした。林道の壁を観察しながら歩くと、マメヅタ、ハコネシダ、ヤマイトチシダ、ジュウモンジシダ、クラマゴケ、カタヒバ、トラノオシダ、ウチワゴケ。Bコース入口にはクジャクシダとキヨスミイトゴケ\*。



いわゆるシダらしい形のもの、そうでないもの、多くの種類のシダを確認できました。似たような形のシダを見分けるのは難しかったですが、コバノヒノキシダ、イワトラノオは中軸の溝の本数で見分ける、そして葉の形や軸以外に、胞子囊のつき方で見分けるなどを教えていただきました。



途中で青・赤・緑に輝く体が美しいハンミョウやダイミョウセセリ、ミヤマアカネ、地衣類の上にいるヤマトイシノミといった昆虫にも出会い、自然を楽しみながら学ぶことのできた時間になりました。

(記 藤田 あずさ⑰、写真 参加者より提供)

#### ◆ 三菱重工エンジン&ターボチャージャ やどりき水源林活動

📅 令和5年8月26日(土) 晴れのち雨

📍 やどりき水源林

👤 参加者 28名 (大人16名 子供12名)

📍 神奈川県水源環境保全課

水源の森林推進グループ; 藤原様、佐藤様

👩‍🏫 L上宮田⑪、若林⑦、湯浅⑪、西出⑫、笠原⑭、牧石⑭、大谷⑰

昨年に続き2回目のやどりき活動、大人16名お子様12名のご参加です。午前中は成長の森19-9の傾斜地で林内整備のグループとBコースの自然観察会の2グループに分かれての活動です。



(観察会写真・三菱重工HGT 山内さんご提供)

間伐活動には20名参加、うち4歳～10歳のお子様8名現地へたどり着けるか心配されましたが、川を渡ることも冒険・急坂を登ることも冒険と終始笑顔で、大人より先に現地へたどり着きました！間伐場所の鹿柵の中は草木に覆われ子供たちにとってはこれまでに経験したことのない自然（やぶ）の中です。



大人の手伝いを頂きながら安全に作業を進めます。こまめな休憩と水分補給をも忘れず、目印のピンクのリボンのついた、カツラの木やホオノキを一人1本伐りました。自分の背丈より高い藪に阻まれながら汗みれで手鋸をぎこぎこ、ぎこぎこ中々でこずりましたがどンドン木くずが出てうまく切れるようになり、自分が持てる長さに切り、運びました。その姿はとても勇ましく思わず拍手です。

昼食をはさみ 13時から3グループに分かれ水生生物観察・癒し体験・丸太切り（スワッグ作り）とフルメニューです。

終盤に急な雨に見舞われましたがすべてのメニューを体験しけがもなく楽しかったの声を森に残し閉会となりました。



(記・写真 上宮田 幸恵⑪)

#### ◆ 県民参加の森林づくり (除伐)

📅 令和5年9月6日(水) 8:30～14:30

📍 箱根町仙石原(箱根小塚山緑地)

👤 60名

👤 古舘様、藤本様

👤 小林様

👤 小田原市森林組合

👤 L西岡⑭、国分③、柏倉④、小野⑦、鈴木⑧、野牛⑧、内野⑨、小笠原⑩、山口⑪、上宮田⑪、東⑫、黒川⑭、小松⑭、牧石⑭、大岡⑮、小国⑰

前日の予報では、雨は、降らないだろうの予想で現地入りしたところ途中から雨が強くなったため雨具を着ての作業となった。作業エリアは、ポーラ美術館の散策路に隣接するトラスト緑地であり、作業は、比較的平らな場所で前回エリアの続きで、ササ類の除伐を主にノコギリで地面刈をおこなった。雨の中、衣服が濡れる人が出てきたため予定より早く作業の切り上げとなった。道具の手入れ後にバスで箱根高原ホテルへ移動し、雨で濡れた体を温泉でいやし、またバスに乗り小田原駅で解散となった。



(記 東 昭⑫)

## ◆ クローバー 《森の音楽会》

## わくわく親子コンサート

日 令和5年9月9日 12:30～16:00 晴れ

場 横浜市緑区 緑公会堂

参 190名

ス クローバーの皆さま

イ L石垣⑮

子供から大人までを対象に音楽・ダンス教室を開いているクローバーの皆さまですが今回「木育；森の役割や大切さを映像や音楽で遊びながら感じてみよう！」の主旨での音楽会開催です。

主催；クローバー 共催：緑区役所 とあり近隣の家族が主ですが、夏休みに開かれたワークショップに参加し、間伐材を使った楽器(拍子木)を作り持参した子供たちはやる気満々です。幕が上り後方大スクリーンにドングリが映し出され、皆を森へと誘います。

「森にいる生き物は？」の問いかけに客席から「カブトムシ！」「クマ～」と元気な声が上がります。

クローバー所属の歌のお姉さん以外は、今回初めて集うピアノ・マリンバ・チェロの演奏者ですが、森のお話にぴったりの選曲に皆引き込まれていきます。

葉っぱの形の顔をした緑区キャラクター着ぐるみのミドリン登場に「ワァ」と喜ぶ皆さんの前に、ヘルメット・鋸装備の正装インストラクターが再登場。歌のお姉さんの質問に答える形で「間伐の意義・川・水道・海へと繋がる森の役割の説明」をします。

プログラム最後は、ステージ前特設広場に集い各自楽器でリズムをとりながらの合奏・合唱が始まり、自然と体も動き出し笑顔溢れる1時間・2回公演となりました。

(記 石垣 桃栄⑮、写真提供 クローバー様)



## ◆ 横浜国立大学附属鎌倉小学校

## 環境・エネダ―学校派遣事業～かながわ環境教室～

## 「水の中の生き物ウォッチング」

日 9月12日(火) 8:55～10:30 晴れ

場 横浜国大附属鎌倉小学校(校内の池、教室)

参 4年生35名、教師1名

イ L井出①、内野⑨、谷川⑩、石垣⑮、大森⑯  
内田⑰、小池⑱

当校は、ユネスコスクールに加盟しており、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点として活動する中で、生物多様性と環境についての取組みを進めています。それを踏まえ今回は、下記手順で授業を行いました。



1. 「校内ビオトープ(ひょうたん池)」で、手網を用いて生き物を採取。
2. 採取した生き物を教室に持ち帰り、抽出と観察を行った。
3. 事前に用意した「見つけた生き物パネル」の、見つけた生き物欄にシールをはり、どんな生き物がいるか、どの生き物が多いかを確認した。(各種ヤゴ、メダカ、ヌマエビなどが多いことを確認)
4. まとめの講話では、池で見つかるヤゴやメダカなどの解説、生き物のつながり、ビオトープの管理方法などについて解説を行った。

本授業で生物を採取し観察する中で、生き物に対する興味・関心がよりわいたのではないかと思います。今後の活動に繋げていってもらいたいと思いました。

(記・写真 井出 恒夫 ①)



## 2023年度第二回森林探訪 募集中

## 初冬の表丹沢・ヤビツ峠周辺をめぐる

開催日：2023年12月2日(土)



参加費：1,500円 (当日徴収します。)

集合：小田急秦野駅改札前 8時00分集合

解散：蓑毛バス停 15:00頃

解散後、路線バスで小田急秦野駅へ

コース：小田急秦野駅北口バス4番乗り場から

ヤビツ峠行乗車 終点下車(50分) →岳の台→菩提峠→寺山富士見 →ヤビツ峠  →蓑毛バス停  (解散)

概要：岳の台、菩提峠などヤビツ峠の周辺を廻り、柏木林道を蓑毛まで下るコースです。紅葉と、針葉樹林/広葉樹林/草原/スギ・ヒノキの人工林と様々な自然が楽しめます。

歩行距離：約8km 標高差：ヤビツ峠→岳の台:+138m, ヤビツ峠→蓑毛:-451m

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート

定員：50名(申込順) 申込締切：2023年11月25日

申込先：認定NPO法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

e-mail：kanagawa\_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください

問い合わせ：TEL 090-9675-3623 担当 松永



かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の  
保全・再生をめざして

[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。



数日前から自宅の周辺でジョウビタキの声がきこえるようになりました。「カタカタ」「ヒッ、ヒッ」という独特の囀りは冬の到来が近いことを教えてくれます。

この「カタカタ」が火打石を連想させることから「火焚き」の名がつけました。ちなみに和名のジョウ(尉)は銀髪を意味します(オスの頭は銀色です=写真)。尾羽をふるわせながらおじぎする仕草も見ていると楽しいです。

チベットから中国東部などで繁殖。最近では日本でも繁殖例が報告されています。冬鳥として全国に渡来し、オス、メスともに縄張りをつくって生活します。

尉鶉, ヒタキ科ジョウビタキ属, (英名) Daurian redstart  
(学名) *Phoenicurus aureus* (記・写真 河西<sup>⑤</sup>)

森のめぐみの掲載は、  
今月号はありません。  
次掲載は12月号です。

森のめぐみ シリーズ

### やどりき水源林ミニガイド

#### 「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

#### 「水源林ニュース」

10月号「秋の水源林を歩いて、いろいろな生きものを探してみよう。」を発行しました。こちらからご覧ください。

chrome-extension://efaidnbmnmbpcjpcglclefindmkaj/https://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news208.pdf



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当：森本 利弘)

#### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫  
skasai0618@gmail.com  
Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当> 笠原かずみ

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫  
skasai0618@gmail.com  
Tel : 090-1227-6209

【別冊】小国 一男  
Mail : [ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

原稿は随時受け付けています。

#### ● やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

● ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ

<http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail [k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)

#### 編集後記

★ 七五三の晴れ着の子どもたちに思わずにっこりする季節になりました。昔は、医療が未発達で子どもの死亡率が高く、節目節目で子どもの成長と幸せを願った親心が七五三の由来です。我が家の娘も自宅から100mほどの子安八幡宮にお参りの後、歩きにくい草履を脱いで足袋で帰宅した思い出があります。先日、インストの派遣で、鎌倉の鶴岡八幡宮のすぐそばの小学校へ行きました。作業の後、八幡宮の流鏝馬のコースを歩き、個人的には石段をあがってお参りをする気満々でした…が、先輩インストの面々が向かったのは、10年以上前に春の嵐で倒れた隠れ銀杏の根もとでした(感服)。現在は、残った根から新しい枝が成長し、立派な樹になっています。この銀杏も七五三でお参りする子どもの成長を再び見守ってくれることでしょう。

(小池宗)

★ 週に2~3回、自宅近くの多摩川の遊歩道をランニング&ウォーキングしています。涼しくなりようやく再開です。すこし前の出来事なのですが、ランニング中、鳥に糞をかけられました。電柱などの下に糞跡がある場合は、鳥がとまっていないうちに見し、いたらすばやく通過する対策を取っていました。が、その時は土手の上で近くに電柱や電線は無く、どうやら飛行中の行為らしいのです。何となく鳥は飛んでいる時は糞をしないと思い込んでいましたが間違っていました。調べると、飛行中もちょくちょくやるようです。ランニング&ウォーキング中は前方・足元に加え頭上も注意です。

(小国)

#### 編集後記 (続)

★ 今年は熊の被害がニュース多く取り上げられていますね。襲われた人にはとても気の毒すぎて言葉にできません。

熊も生き残りをかけて必死なのでしょう。これは自然界から地球温暖化の警告のひとつではないかとかんじています。ニュースでもっと深く取り組んで欲しいと思うこの頃です。

(笠原)

★ 今夏の高温少雨の影響が、農作物に出ていますね。野菜だけでなくお米も不作です。

温暖化の影響でしょうか?ここ数年昆虫の数が減ってきているとのこと。これも心配です。

(黒川)

#### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**  
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 河西 静夫  
広報部: 黒川 敏史、松本 保、  
笠原 かずみ、長尾 晴子、  
竹内 明彦、小林 照夫、  
小国 一男、小池 宗子  
支援: 大原 正志、吉田 郁夫